

知識情報・図書館学類

College of Knowledge and Library Sciences

- 学士（図書館情報学）
- Bachelor of Arts in Library and Information Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

文理の枠を超えて、知識や情報に関する社会的・学術的課題に主体的に取り組み、新たな知の創造を通じて社会の発展に貢献する人材を養成します。特に、知識や情報の蓄積・流通に関わる人間の行動、情報技術、社会や文化についての知見を横断的に活用し、課題を自ら発見し解決へと導く力を備えた人材の育成を推進します。

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> - 人間、情報技術、社会にわたる総合的視野を備え、知識基盤社会の課題解決に貢献できる分野横断的人材 - 知識資源の形成、加工、流通、利用の仕組みを体系的に把握し、専門知の実践を通じて社会の発展を支える高度専門職人材 - 知識や情報に関わる諸原理を理解し、新たな知の創造を通じて知識共有現象の解明に寄与する研究志向型人材
卒業後の進路	<p>分野横断的人材は、コンサル、商社・流通、運輸・旅行、金融・保険、サービス、製造販売などの民間企業、および、官庁・自治体などにおいて、総合的視野を生かして活躍の場が増えています。高度専門職人材は、マスコミ・出版、情報・通信、図書館・学校等において、その専門的能力をいかんなく発揮しています。また、大学院へ進学しその専門性をさらに発展させてから就職することが主流となりつつあることに加えて、公務員や図書館員として働きつつ、社会人院生として学び専門性を深める道も開かれています。</p> <p>研究志向型人材は、博士前期課程に加えて博士後期課程も見据えつつ、情報学学位プログラムをはじめとして主に筑波大学の大学院に進学し、研究者を目指します。</p>

学位授与の方針 / Diploma Policy

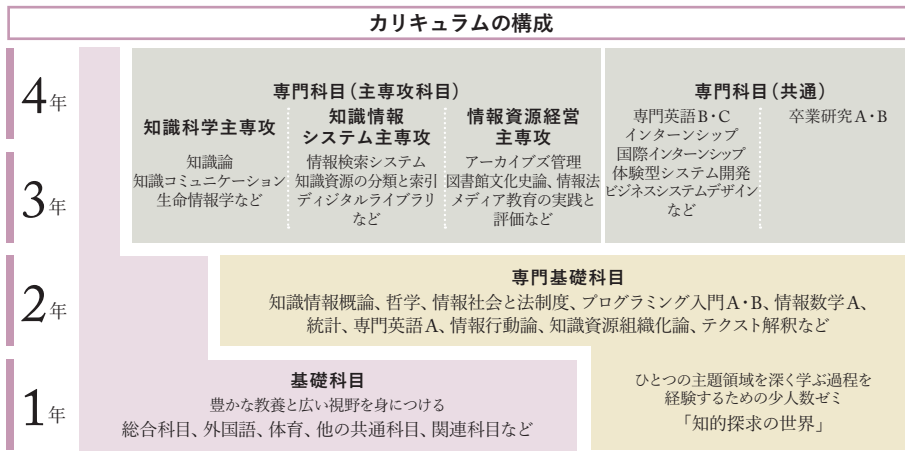
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（図書館情報学）の学位を授与します。本学類では以下の知識・能力を専門コンピテンスとして設定しています。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 文理融合型基礎の獲得	情報学分野に関する文理にわたる幅広い基礎知識と視野を獲得していること
	2. 知識共有現象の理解	知識を生成・加工・蓄積・伝達・利用する知識共有現象を多様な学問的観点から理解していること
	3. 調査研究能力	量的調査、質的調査、統計解析などのさまざまな調査分析手法を習得し調査研究を遂行できること
	4. 知識基盤構築能力	情報技術を駆使して知識資源やデータ基盤を形成・活用する能力を有していること
	5. 知識伝達能力	さまざまな情報源から適切な情報を検索し蓄積された知識を適切に加工・表現して伝達する能力を有すること
	6. 多様性の理解と倫理性の獲得	文化や価値観の違いを理解し、倫理観と公共心を備えていること
学修成果の評価に関する方針	<p>学修成果の集大成である卒業研究への取り組みを、学位授与方針における到達目標に沿って複数の教員により評価します。</p> <p>また、成績評価を厳格化・透明化するために、成績分布の目標値を定めるとともに、科目ごとの成績分布を公表します。</p>	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（図書館情報学）に係る知識・能力（コンピテンス）を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の 編成方針</p>	<p>総合的な方針 三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「情報技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、情報技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。</p> <p>順次性に関する方針 1年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システムなどについての概論や、プログラミング入門などの専門基礎科目を通して、【文理融合型基礎の獲得】や【知識共有現象の理解】、【知識基盤構築能力】を身につけます。2年次では、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、哲学や統計、各種調査法、知識・情報の基礎理論などを対象とした専門基礎科目を履修することで、【調査研究能力】、および、【知識伝達能力】を修得し、【多様性の理解と倫理性の獲得】をします。また、さらなる技術を修得し【知識共有現象の理解】と【知識基盤構築能力】を高めるために知識情報演習を履修します。3年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次では、研究室に所属して卒業研究を行い論文を執筆することで、【調査研究能力】、【知識基盤構築能力】、【知識伝達能力】を養います。</p> <p>実施に関する方針 科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上のコンピテンスを身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、【調査研究能力】、【知識基盤構築能力】、【知識伝達能力】などの応用的・実地的なコンピテンスを全員が修得できる仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」及び海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施し、【知識共有現象の理解】と【知識伝達能力】の実践を通じた涵養を図るとともに、【多様性の理解と倫理性の獲得】を実現する教育体制を整えています。</p>
<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<p>科目「知的探求の世界」は、少人数で実施される対話的な科目であり、教員の支援のもとに学生の自主的な学びの場を提供します。この科目では、輪読や演習を通して【知識共有現象の理解】と【知識伝達能力】を一層深め、自主的な探求を通して【調査研究能力】、および、【知識基盤構築能力】を深化させることができます。また、科目「組み込み技術キャンパスOJT」や「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク（enPiT）」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。これらの授業では、1～2年次で身につけた【知識基盤構築能力】をより実践的な状況下でさらに発展させることができます。</p>



入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	知識スペシャリストにふさわしい豊かな発想と表現力をもった人材，知識ゼネラリストにふさわしい論理的思考力とコミュニケーション力をもった人材を求めます。	
入学者選抜方針	個別学力検査等後期日程	総合的な基礎学力に加えて，論理的思考力，表現力，広い視野からの発想を評価します。
	推薦入試	高等学校で学習する全教科がバランス良く優れていることに加え，論理的思考力，コミュニケーション能力，説得力，豊かな発想を評価します。
	AC入試	社会における情報の伝達や知識の創造に関して幅広く興味を持ち，関連した課題を自ら発見し，分析・解決していく能力を評価します。課題の分析結果を論理的に説明することや，説得力のある提案ができることも評価します。
	国際バカロレア特別入試	主体的に学ぶ意欲のある者を対象として，語学力を含む基礎学力や論理的思考力，コミュニケーション能力，説得力を評価します。
	外国学校経験者特別入試	第1種) 第2種) 知識と情報に対する学習意欲や日本語によるコミュニケーション能力に加えて，日本語及び英語による理解力，論理的思考力，表現力等を総合的に評価します。
	編入学試験	知識と情報に関する領域で学んだ知識・技術を深めたり，異なる領域で学んだ知識・技術を基に新しい領域に挑戦したりする意欲と学力を有する人材を選抜します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<p>「春日ラーニングコモンズ」を図書館情報学図書館に設置しており、履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などについてのサポートを行っています。静謐な空間で内省を通じて自己理解を深められる「ウェルビーインググループ」を設置しており、心理的な側面から学生を支援しています。</p> <p>修学指導グループでは、クラス担任と連携し、学業の振るわない学生の抽出と定期的なケアを行っています。進路指導グループでは、専門のキャリアアドバイザーの協力のもと、きめ細やかなキャリアサポートを実施しています。学類独自の学会発表支援制度を設けており、国内外での学会発表に関わる経費の補助を行っています。</p>
<p>学生同士の交流機会</p>	<p>「春日ラーニングコモンズ」に学生チューターを配置しており、先輩学生に対して学修に関する様々な相談ができる環境を整えているほか、イベント等を通じて学生同士の交流を図っています。「ビブリオバトルスタジオ」を設置し、本学類の特徴でもあるビブリオバトルを気軽に行える場を提供することで、学生同士の交流を図っています。</p> <p>進路指導グループでは進路に関する各種イベントを実施しており、学生同士や卒業生との交流機会があります。本のレビューを共有できるアプリ BOOK MARRY を学類で導入し、学生同士で本を通じたオンライン上の交流ができます。</p>
<p>教員との交流機会</p>	<p>春日クラス地区代表者会議とのクラス連絡会を年2回開催していることに加えて、教育課程グループと「教育課程を考える会」を年2回程度実施し、教員と学生との間で学修や学生生活に関する課題の共有と解決に向けての検討を行っています。</p> <p>チュートリアル型授業として「知的探究の世界」および「PBL型図書館サービスプログラム開発」を開発しており、学生は自身の興味を生かしつつ、密度の高い学修を行うことができます。研究室への正式配属に先立って、プレ卒研の期間を4か月設けています。プレ卒研では配属予定の研究室でゼミ等を行い、卒業研究に向けた準備を行います。各教員はオフィスアワーを設けており、予約なしで教員を訪問し学修に関する質問や相談することができます。</p>

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育の質の保証に関する考え方と方策

本学類は、無計画に修得単位数を増やすことよりも、履修前に自身の学修計画を慎重に立てるよう指導し受講する科目で高い到達度を得ることを期待しています。クラス担任や指導教員には、定期的に学生と面談することを義務づけ、学修指導に GPA を活用しています。3年次では TOEIC を受験し、グローバル社会に備えます。

教員の教育力向上の方策

- 学生による授業評価を実施しています。
- 受講者数および成績分布の調査を公表しています。
- シラバスの内容を点検しています。
- 教育会議にて FD を実施しています。

教育改善のための体制

教育課程グループでカリキュラム全般に関する企画・実施・評価を行っています。

カリキュラム改善の方策

教育課程グループが中心となって、学生の学修成果に関する評価を行い、科目間の内容調整など、カリキュラムの内容の定期的な見直しを行っています。

